

- 労働時間については、工期に関する基準の制定や、令和6年度から開始される残業の上限規制などにより、他産業と比べて長いとされる労働時間の短縮に向けた取組が進むが、週休2日制を進める上でも、労務費、賃金の上昇を求める意見も多く聞かれる。
- 賃金については、CCUSなどの処遇改善に向けた取組が進む中、設計労務単価が10年連続で上昇する一方で、建設技能者の平均年収はその伸びに及んでいないとの意見もある。

- **設計労務単価相当の賃金の行きわたりを更に徹底させる方策として、重層下請構造が元下間の請負金額に与える影響や、重層化による非効率性についても、考えていく必要があるのではないか。**

### (参考) 調査結果

- 週休2日制を導入できない理由としては、「適切な工期が確保できないため」が65.7%と圧倒的に多い。次いで、「人手不足のため」「元請企業が休ませてくれないため」「日給の労働者の収入が減少するため」が30%台で続く。
- 週休2日制の定着に必要な条件としては、「適正な工期」「労務単価のアップ」が6割前後と多く、「十分な人手の確保」がそれに続く。
- 週休2日制に関する意見の内容としては、「労務単価、賃金アップが優先されるべき (63件/210件)」「元請が徹底しない限り休めない。業界全体としても取り組むべき (53件/210件)」というものが多。